

(縁・円・援)

# 兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

## あれから半年…。コロナ禍を振り返る

未知のウイルス・災害を意識した活動のロードマップ

長期展望期(新たな地域生活)



混乱期(発生直後)

- 自粛による生活の変化
- 感染対策の徹底(三密を避ける・マスク・手洗い・うがい等)
- 医療崩壊の危機

移行期(自粛解除後)

- つどい場等のコミュニティの変化
- IT・オンラインの活用
- 現役世代の失業が相次ぐ
- 第2波、第3波到来
- 孤立者・うつ病・自殺者の急増



- コロナ禍でも可能で効果のある活動・サービスの発掘・工夫
- コロナ禍で新たに孤立した現役世代・外国人などと地域との互助体制の確立
- コロナ禍での地域共生社会の確立(縦割りから地域での協働へ)
- 平常時から感染予防・災害を意識

地域

身体

精神

生活

### コロナ禍の状況を4つの視点で整理すると

地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の約半数が戻りつつあったが、第3波で再び停滞する懸念がある。</li> <li>・居場所等の活動が開始になっても出てこられていない人がいる。</li> <li>・特に現役世代の生活困窮、外国人の孤立等の課題が明らかになっている。</li> <li>・活動の再開に関して意見の対立から関係性が崩れている場合がある。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役世代の収入源、失業等深刻な状況になり、新型コロナウイルス特例貸付申請件数が急増</li> <li>・特例貸付の情報が行き渡っていない等の理由により、必要な人が支援を受けられていない恐れもある。</li> <li>・日常生活にはあまり支障が無くなったが、人との関わりや会話が減り孤立している。</li> <li>・感染を恐れ、通所系介護サービス等を避ける傾向。</li> </ul>
精神	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は重症化しやすく、感染への恐怖が強い人が多い。</li> <li>・これまで関わりがあった人と会えなくなったさみしさを訴える。</li> <li>・繰り返す感染の波に先が見通せない不安がある。</li> <li>・生活や感染の不安から、自殺やアルコール依存、うつ病等が増えた。</li> </ul>
身体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関での感染の恐れから調子が悪くても受診を控え、持病が悪化したり新たな疾患も手遅れになっている場合がある。</li> <li>・自粛等で動かない弊害のフレイル、転倒等が起きている。</li> <li>・入院しても面会ができないため、回復への意欲低下等がある。</li> </ul>



お知らせ～ひょうごの福祉 12月号特集について～

兵庫県社協機関誌「ひょうごの福祉」(R.2.12月号)では、これまでの「えんだより」で取り上げた事例を紹介しながらコロナ禍での活動のポイントを整理した特集を予定しています。

【発行元】(令和2年11月26日発行)

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

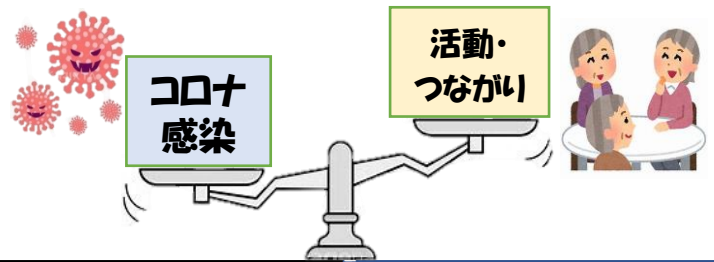
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部

TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297

E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当: 山下・永坂)

# これまでの「えんだより」を通してコロナ禍を振り返る

これまでの「えんだより」(第1~10号)では、コロナ禍での様々な取り組みを紹介してきました。この半年を振り返って「できたこと」「ところによってできたこと」「残されていること」を検証してみましょう。



## コロナ禍活動バロメーター

### できたこと

### ところによってできたこと

### 残されていること

## 地域



- 集い場等への感染対策(行政のガイドライン等)の徹底
- 地域の活動者への聴取り、アンケート等
- 今後について話し合う

- 密にならないつながりづくりの模索(マスク・ラジオ体操等)
- 配食等を企業・スーパー等と協働
- 医療・企業・行政等と協働する
- ケーブルTV等で健康体操を放送
- 「わがまち流ガイドライン」作成
- 各地域で独自の活動が展開

- コロナで集会をやめた地域のフォロー
- 活動再開の是非をめぐる、参加者同士の意見の相違についての話し合い
- コロナ禍で新たに孤立した現役世代・外国人などに対し、地域としてできることの検討・支援
- 地域共生社会に向けてコロナ禍でつながっていく協議の場づくり

## 生活

- 感染予防を意識した生活
- 特例貸付等での経済的支援
- 介護サービス利用者は担当者が調整

- 地域での会食等を店舗・宿泊施設の協力を得て、配食やお弁当に変更
- 特例貸付に続けて、若者・学生・外国人向けに企業等と協働して、食糧支援等を実施
- 仕事のあっせん(「お仕事“えん”プロジェクト」)

- 離職者・休職者と求人のマッチングの継続
- 通所系介護と同等のサービスの提供方法の検討
- 感染拡大時の買い物支援、物資の確保

## 精神



- つながり、役割づくりを切らない取り組み(マスクづくり、手紙電話、玄関先訪問等)を行う

- 特例貸付にこられた若者、フリーランス、外国人、障害者等への継続した支援
- 活動再開に向け活動リーダーたちの話し合いの場を持つ

- 感染拡大・収束の不安への対処
- 感染のおそれから会えなくなった人達の再会を支えるITなどの活用検討
- コロナ禍により生活基盤が弱まった方々への調査から得られた情報をもとにした、具体的支援策の検討・実施

## 身体

- 自粛により体力や認知能力が低下することの周知
- 密にならない運動(散歩・ラジオ体操等推奨)
- 感染予防・熱中症予防

- 居場所をラジオ体操に変更
- ケーブルTVで体操を流しながら身体を動かすことの推奨
- 感染予防の研修や勉強会で感染しにくい“身体”づくり

- 医療機関を守りつつ、入院患者との面会を可能とする方法の検討
- TV/ラジオ体操等と、フレイル・転倒予防の効果検証

【編集後記】 新型コロナウイルスの感染拡大が起きてから世界中が大きな衝撃を受け、変化を求められることになりました。このような中、「兵庫えんだより」も第11号まで発行することができました。現在も感染拡大は続いています。一つの区切りとして、「何ができて、何を残しているか」を振り返って検証することも専門性だと思えました。振り返ってみると、できていることもあります。生活支援〇〇だけでなく、社協及び専門機関としてまだまだ残している「もう一つの現場」に気づかされました。“第3波”が言われるなかで、再度、地域住民に寄り添うことに全力を尽さなければと身も心も引き締まる思いです。